

実践事例① 墨田区立言問小学校

1 取組・活動名

「ブラインドサッカー体験」

2 取組・活動のねらい

- パラリンピック競技大会を支える人々の活動について学び、ボランティアマインドの醸成を図る。
- パラリンピアンとの交流を通して、視覚障害者への理解とパラリンピック競技への興味をもたせる。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・4時間」

4 実施上の工夫

- ・ パラリンピアンには「なぜこの競技をしようと思ったのか」「どんな気持ちで競技をしているか」などを話してもらった後、児童と一緒にブラインドサッカー体験をする。
- ・ ボランティア・スタッフの方には、「パラリンピックについての説明」「スタッフとしてどんなことをしているか」などを話してもらう。
- ・ ブラインドサッカー体験の前に、ボランティア・センターの方を呼び、学年に応じて体験活動や思いやりの心を育む活動を行った。

6学年 認知症サポーター講座

5学年 ガイドヘルパー体験

4学年 点字作成体験

3学年 手話体験

5 本取組・活動の内容



「パラリンピアンサポートスタッフの講演」

- ・ ボールの位置をどのように教えてあげたらよいか等の説明をしてくれた。
- ・ 体験者は両手を組んで方向を示し、周りの人は拍手の大きさと教える。声よりも拍手の方がいいということが分かった。



「パラリンピアンの実技指導」

- ・ パラリンピアンと一対一でボールの取り合い、シュートゲームに挑戦した。
- ・ パラリンピアンは、ボールの中に入っている鈴の音をたよりにプレーをしていたが、まるで足にボールが吸い付いているようだった。



「ガイドヘルパー体験」

- ・ 友達と交代しながら、ガイドヘルパーを務め、校内を案内した。
- ・ 階段が始まる場所、終わる場所、曲がる場所、どこの教室の前を歩いているのかなどを説明した。
- ・ コミュニケーションをとることの大切さを学べた。

6 成果

- ・ パラスポーツへの興味や関心が高まっただけでなく、パラスポーツを支える方々がどのようにしてパラリンピアンを支えているのかを知り、ボランティアについて考えることができた。
- ・ パラリンピアンの方が障害を乗り越えて取り組む姿を知り、スポーツを通じた学習から、児童自身が今後も活躍の場を広げようとする意欲を向上することができた。
- ・ 様々な福祉体験を体験することで、障害の種類に関係なく、それぞれの立場になって考える障害者への理解力が養われた。
- ・ 実際に障害者の方々の立場になった体験や、それを支えるボランティア体験を通して自分に何ができるかを考える機会がもてた。